

## 杉本春生



岩国市  
(1926～1990)

詩の創作や評論活動にはかくまでも多角的資料調査（知識）が必要だったのだと思わせるほど多くの本を漁った。数回の闘病生活の中での思索。サルトルやカミュにも出会った。森有正の「流れのほとりに」に接し、「苦しい生活に耐え哲学的思索」を捨てなかつたことにある種の開眼をする。「詩を通した人間批評であり、時代批評である、繊細、鋭利、よくものの真髄に分け入り・・・」と批評家は評している。思いを残して六十四歳で他界した。

（稻生 慧）

## 【主な著作】

『現代詩の方法』（思潮社、昭和34年）

『抒情の思想』（彌生書房、昭和44年）

『森有正』（花神社、昭和53年）